

作成年月日	令和2年11月17日
作成部局	企画県民部知事公室芸術文化課

兵庫陶芸美術館 開館15周年記念特別展「ひょうごゆかりの古陶磁—丹波焼・三田焼・  
おうじやま 王地山焼—」及び2020年度著名作家招聘事業・テーマ展「植松永次展」の開催

## 1 展覧会の概要

### (1) 開館15周年記念特別展「ひょうごゆかりの古陶磁—丹波焼・三田焼・王地山焼—」

当館は2005年の開館以来、購入、寄贈、寄託などによって収蔵作品を充実させてきました。本展では、近年、新たに収蔵品に加わった古陶磁の作品を中心に約90点をご紹介します。

#### ① 丹波焼・三田焼・王地山焼の新収蔵品を中心とした展示

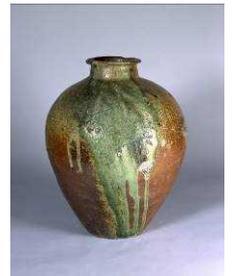
近年新たに当館の収蔵作品に加わった丹波焼とその周辺地域で作られた三田焼、王地山焼をご紹介します。

#### ② 人々の暮らしのやきものを展示

泰平の世が続いた江戸時代、伊丹や灘では良質な酒が醸造され酒を運搬・貯蔵、注ぐための容器として様々な形状の徳利が作られました。また、園芸の文化も開花し、江戸時代後期に本格的に生産が始まった植木鉢や水生植物とともに金魚などを入れて鑑賞するための睡蓮鉢が作られました。本展では、これら徳利や植木鉢、睡蓮鉢の他、葉茶壺や油壺など、暮らしの中で使用されたやきものを多数展示します。

#### ③ 江戸時代後期に流行した文人趣味をイメージ・再現した展示

江戸時代後期に中国の詩文や書画に精通した知識人らを中心に流行した文人趣味。彼らは、煎茶や詩書画を通して交友を深め、中国の明や清時代の文人の生活を体現しようとしていました。本展では、文人趣味の生活を当館の所蔵作品を用いて現代的にアレンジ・再現します。「煎茶の道具立て」や「文房飾り」、「料理の卓飾り」による風雅な文人趣味の生活をお楽しみください。



丹波 壺 室町時代中期  
兵庫陶芸美術館

### (2) 2020年度著名作家招聘事業・テーマ展「植松永次展」

土と火を素材としながら、彫刻にも、陶芸にも括りきれないような独創的な作品を制作する造形作家・植松永次氏。そのユニークな土との対話方法から、やきもの表現の新たな可能性を探ります。



植松永次 《初めの白》  
2016年 個人蔵

- |         |  |
|---------|--|
| 2 会 期   | 2020年12月12日(土)～2021年2月21日(日)   |
| 3 開館時間  | 10:00～18:00 ※入館は閉館の30分前まで  |
| 4 休 館 日 | 月曜日、2020年12月31日(木)、2021年1月1日(金・祝)<br>(ただし2021年1月11日(月・祝)は開館し、1月12日(火)は休館)  |
| 5 観 覧 料 | 一般600(500)円、大学生500(400)円、高校生以下無料<br>※( )内は特別割引および20名以上の団体割引料金です。<br>※70歳以上の方は半額になります。<br>※障害のある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。<br>※17時以降に観覧される場合には、夜間割引料金になります。 |
| 6 主 催   | (1) 特別展：兵庫陶芸美術館、神戸新聞社<br>(2) 著名作家招聘事業・テーマ展：兵庫陶芸美術館、丹波新聞社   |

【問い合わせ先】兵庫陶芸美術館  
学芸課、企画・事業課  
電話：079-597-3961  
FAX：079-597-3967  
E-mail: togei@pref.hyogo.lg.jp

兵庫陶芸美術館  
開館15周年記念

特別展

ひょうごゆかりの古陶磁  
— 丹波焼・三田焼・王地山焼 —

2020年12月12日[土]～2021年2月21日[日]

TAMBA



左上：丹波 壺 室町時代中期

左下：丹波 灰釉筒描大甕 江戸時代中期

中上：三田 青磁騎牛帰家香炉 江戸時代後期

中下：三田 青磁龍文花瓶 江戸時代後期

右上：王地山 染付山水図獣耳植木鉢 天保2年

右下：王地山 瑠璃釉四神文蓋物 江戸時代後期

※所蔵はすべて兵庫陶芸美術館

SANDA



OJIYAMA



土と語る、森の中の美術館



兵庫陶芸美術館  
The Museum of Ceramic Art, Hyogo

## 「ひょうごゆかりの古陶磁 —丹波焼・三田焼・王地山焼—」について

兵庫県を代表するやきものに、約 800 年の歴史を誇り、平成 29 年（2017）には日本六古窯の一つとして日本遺産に認定された丹波焼（丹波篠山市など）があります。平安時代末期に誕生した丹波焼は、鎌倉時代から室町時代には主として壺、甕、播鉢といった実用品を生産しましたが、江戸時代にはさまざまな装飾技法を取り入れて、葉茶壺や水指など、茶の湯の道具も製作するようになりました。また、丹波の周辺では、江戸時代後期に有馬郡三輪村の明神山の麓に窯を開き、青磁を中心に染付や色絵など、磁器から陶器まで幅広くやきものを焼造した三田焼（三田市）が生産をはじめます。やや時期が遅れて、篠山城下では、青磁や白磁、染付、瑠璃釉など、多彩なやきものを生み出した王地山焼（丹波篠山市）がほどなく活動をはじめます。このように、兵庫県内の窯場では、地域に根ざした伝統的な陶磁器が作り出され、それらは人々の生活と密接に結びついてきました。

本展では、近年、新たに当館の収蔵作品に加わった古陶磁を中心に、人々の暮らしとともに使われたやきもの、約 90 点をご紹介します。

### ◆展覧会の特徴

#### （1）丹波焼、三田焼、王地山焼の新収蔵品を中心とした展示

兵庫陶芸美術館は、平成 17 年（2005）の開館以来、購入、寄贈、寄託などによって収蔵作品を充実させてきました。開館 15 周年を迎える本展では、近年新たに当館の収蔵作品に加わった丹波焼とその周辺地域で作られた三田焼、王地山焼をそれぞれご紹介します。

#### （2）人々の暮らしのやきものを展示

泰平の世が続いた江戸時代、伊丹や灘では良質な酒が醸造され、酒を運搬・貯蔵、注ぐための容器として様々な形状の徳利が作られました。また、園芸の文化も開花し、江戸時代後期に本格的に生産が始まった植木鉢や水生植物とともに金魚などを入れて鑑賞するための睡蓮鉢が作られました。本展では、これら徳利や植木鉢、睡蓮鉢の他、葉茶壺や油壺など、暮らしの中で使用されたやきものを多数展示します。

#### （3）江戸時代後期に流行した文人趣味をイメージ・再現した展示

江戸時代後期に中国の詩文や書画に精通した知識人らを中心に流行した文人趣味。彼らは、煎茶や詩書画を通して交友を深め、中国の明や清時代の文人の生活を体現しようとしていました。本展では、文人趣味の生活を当館の所蔵作品を用いて現代的にアレンジ・再現します。「煎茶の道具立て」や「文房飾り」、「料理の卓飾り」による風雅な文人趣味の生活をお楽しみください。

## 展 覧 会 概 要

◆ 展覧会名称

兵庫陶芸美術館 開館 15 周年記念特別展  
「ひょうごゆかりの古陶磁 一丹波焼・三田焼・王地山焼一」

◆ 英文名称

The Museum of Ceramic Art, Hyogo 15th anniversary special exhibition  
Ceramic Made in Hyogo “Tamba Ware, Sanda Ware, Ojiyama Ware “

◆ 会 期：2020 年 12 月 12 日（土）～2021 年 2 月 21 日（日）（60 日間）

◆ 開館時間：10：00～18：00 ※入館は閉館の 30 分前まで

◆ 休 館 日：月曜日、2020 年 12 月 31 日（木）、2021 年 1 月 1 日（金・祝）  
（ただし、2021 年 1 月 11 日（月・祝）は開館し、1 月 12 日（火）は休館）

◆ 観 覧 料：一般 600 円（500 円）、大学生 500 円（400 円）、高校生以下無料  
※（ ）内は、特別割引および 20 名以上の団体割引料金です。  
※70 歳以上の方は半額になります。  
※障害のある方は 75%割引、その介助者 1 名は無料になります。  
※17：00 以降に観覧される場合は、夜間割引料金になります。  
（一般 300 円、大学生 250 円）  
※特別割引券はローソンチケット・ミニストップ（Lコード 52690）、  
ファミリーマート（店内設置の Fami ポートより）で 2021 年 2 月 20 日（土）  
まで販売しています。

◆ 会 場：兵庫陶芸美術館 展示室 1・2・4

◆ 出品点数：約 90 点

◆ 主 催：兵庫陶芸美術館 神戸新聞社

◆ 後 援：兵庫県、兵庫県教育委員会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会、丹波市、  
丹波市教育委員会、公益財団法人 兵庫県芸術文化協会、公益財団法人 兵庫  
県国際交流協会

◆ 協 力：丹波立杭陶磁器協同組合

## 関連イベント

◆ギャラリートーク：当館学芸員による展示解説

[日時] 2020年12月19日(土)、2021年1月2日(土)、1月16日(土)、1月30日(土)、  
2月13日(土) いずれも11:00より1時間程度(観覧券が必要です)

◆ワークショップ：「楽焼チャレンジ！ My 抹茶茶碗でお茶会」

[日時] 2021年1月11日(月・祝) 13:00～15:30 作品づくり  
(抹茶茶碗と小皿 各1個)

2021年2月14日(日) 10:00～16:00 楽焼焼成体験とお茶会

[場所] 当館エントランス棟1階 工房／展示棟／当館茶室「玄庵」

※事前申込制(有料、定員15名、応募者多数の場合は抽選)

※応募締切 2020年12月24日(木) 16:00 必着

◆親子で楽しむ星空鑑賞会：「移動式プラネタリウムと天体望遠鏡による星空鑑賞会」

[日時] 2021年2月6日(土) 16:00～19:00

[場所] 当館研修棟1階セミナー室／エントランス棟2階レストランウッドデッキ

[講師] 小関高明氏(関西モバイルプラネタリウム代表)

[定員] 25名(事前申込制、先着順)

[参加費] 一般300円、大学生250円、高校生以下無料

◆新春のおもてなし

[日時] 2021年1月2日(土)～1月3日(日)

展覧会ご入場の方、各日先着100名様に、丹波焼小皿をプレゼントします。また、  
期間中は、割引料金でご観覧いただけます。

〈一般〉600円→500円 〈大学生〉500円→400円

※各イベントに関する詳細は、お問い合わせください。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、展覧会を含め各イベントにつきましては変更・中止となる場合があります。最新情報は、当館ホームページをご確認いただくか、お問い合わせください。

## お知らせ ・ お問い合わせ

### ◆同時開催のテーマ展

2020 年度著名作家招聘事業×テーマ展

「植松永次展」

2020 年 12 月 12 日（土）～2021 年 2 月 21 日（日）

「丹波焼の世界 season4」

2021 年 2 月 28 日（日）まで

### ◆次回特別展

「No Man' s Land—陶芸の未来、未だ見ぬ地平の先—」

2021 年 3 月 20 日（土）～5 月 30 日（日）

### ◆交通のご案内

・ JR 福知山線「相野駅」下車

駅前より神姫グリーンバス「兵庫陶芸美術館」「こんだ薬師温泉」または「清水寺」  
行き乗車約 15 分、「兵庫陶芸美術館」下車

・ 舞鶴若狭自動車道・三田西 I C より約 15 分、または丹南篠山口 I C より約 20 分

### ◆本資料に関するお問い合わせ

兵庫陶芸美術館

広報担当：企画・事業課 澤野 洋子（サノ ヨウコ）

E-mail : Youko\_Sawano@pref.hyogo.lg.jp

展覧会担当：学芸課 萩原 英子（ハギハラ エイコ）

E-mail : Eiko\_Hagihara@pref.hyogo.lg.jp

住 所：〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭 4

T E L : 079-597-3961

F A X : 079-597-3967

ホームページ : <https://www.mcart.jp>

# TAMBA

兵庫陶芸美術館  
開館15周年記念  
特別展

ひょうごゆかりの

# 古陶磁

— 丹波焼・三田焼・王地山焼 —

2020年12月12日[土]～2021年2月21日[日]



# SANDA

- 【休館日】 月曜日、2020年12月31日(木)、2021年1月1日(金・祝)  
(ただし、2021年1月11日(月・祝)は開館し、1月12日(火)は休館)
- 【開館時間】 10:00～18:00 ※入館は閉館の30分前まで
- 【観覧料】 一般600円(500円)、大学生500円(400円)、高校生以下無料  
( )内は、特別割引および20名以上の団体割引料金です。  
※70歳以上の方は半額になります。  
※障害のある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。  
※17:00以降に観覧される場合は、夜間割引料金になります。(一般300円、大学生250円)  
※特別割引券はローソンチケット・ミニストップ(Lコード 52690)、  
ファミリーマート(店内設置のFamiポートより)で2021年2月20日(土)まで販売しています。

主催/兵庫陶芸美術館、神戸新聞社  
後援/兵庫県、兵庫県教育委員会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会、  
丹波市、丹波市教育委員会、公益財団法人 兵庫県芸術文化協会、公益財団法人 兵庫県国際交流協会  
協力/丹波立杭陶磁器協同組合



# OJIYAMA



土と語る、森の中の美術館  
兵庫陶芸美術館  
The Museum of Ceramic Art, Hyogo

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4 TEL079-597-3961  
<https://www.mcart.jp>

(上から) [丹波] 壺 室町時代中期 [三田] 青磁桜花文銚子 江戸時代後期 [三田] 青磁騎牛帰家香炉 江戸時代後期  
[王地山] 染付山水図獸耳植木鉢 天保2年 [王地山] 染付宝尽文茶入 江戸時代後期 所蔵はすべて兵庫陶芸美術館

兵庫陶芸美術館  
開館15周年記念

特別展

# ひょうごゆかりの古陶磁

— 丹波焼・三田焼・王地山焼 —

2020年12月12日[土]～2021年2月21日[日]

兵庫県を代表するやきものに、約800年の歴史を誇り、平成29年(2017)には日本六古窯の一つとして日本遺産に認定された丹波焼(丹波篠山市など)があります。平安時代末期に誕生した丹波焼は、鎌倉時代から室町時代には主として壺、甕、播鉢といった実用品を生産しましたが、江戸時代にはさまざまな装飾技法を取り入れて、葉茶壺や水指など、茶の湯の道具も製作するようになりました。また、丹波の周辺では、江戸時代後期に有馬郡三輪村の明神山の麓に窯を開き、青磁を中心に染付や色絵など、磁器から陶器まで幅広くやきものを焼造した三田焼(三田市)が生産をはじめます。やや時期が遅れて、篠山城下では、青磁や白磁、染付、瑠璃釉など、多彩なやきものを生み出した王地山焼(丹波篠山市)がほどなく活動をはじめます。このように、兵庫県内の窯場では、地域に根ざした伝統的な陶磁器が作り出され、それらは人々の生活と密接に結びついてきました。

本展では、近年、新たに当館の収蔵作品に加わった古陶磁を中心に、人々の暮らしとともに使われたやきもの、約90点をご紹介します。

# TAMBA



左:[丹波]焼締甕文貼付睡蓮鉢 江戸時代後期～明治時代  
右:[丹波]灰釉筒描大甕 江戸時代中期



# SANDA



左:[三田]青磁唐人物図水滴 江戸時代後期  
右:[三田]青磁龍文花瓶 江戸時代後期

# OJIYAMA



左:[王地山]瑠璃釉四神文蓋物 江戸時代後期  
右:[王地山]青磁染付山水図瓢形徳利 江戸時代後期

\*所蔵はすべて兵庫陶芸美術館

## ●ギャラリートーク

### 当館学芸員による展示解説

[日時]2020年12月19日(土)、  
2021年1月2日(土)、1月16日(土)、1月30日(土)、2月13日(土)  
いずれも11:00より1時間程度(観覧券が必要です)

## ●ワークショップ

### 「楽焼チャレンジ! My抹茶茶碗でお茶会」

[日時]2021年1月11日(月・祝)13:00～15:30 作品づくり(抹茶茶碗と小皿 各1個)  
2021年2月14日(日)10:00～16:00 楽焼焼成体験とお茶会  
[場所]当館エントランス棟1階工房/当館茶室「玄庵」  
※事前申込制(有料、定員15名、応募者多数の場合は抽選)  
※応募締切 2020年12月24日(木)16:00必着

## ●親子で楽しむ星空鑑賞会

### 「移動式プラネタリウムと天体望遠鏡による星空鑑賞会」

[日時]2021年2月6日(土)16:00～19:00  
[場所]当館研修棟1階セミナー室/エントランス棟2階レストランウッドデッキ  
[講師]小関高明氏(関西モバイルプラネタリウム代表)  
[定員]25名(事前申込制、先着順)  
[参加費]一般300円、大学生250円、高校生以下無料

## 新春のおもてなし [日時]2021年1月2日(土)～1月3日(日)

展覧会ご入場の方、各日先着100名様に、丹波焼小皿をプレゼントします。また、期間中は、割引料金でご観覧いただけます。

〈一般〉600円→**500円** 〈大学生〉500円→**400円**

※各イベントに関する詳細は、お問い合わせください。  
※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、展覧会を含め各イベントにつきましては変更・中止となる場合があります。最新情報は、当館ホームページをご確認いただくか、お問い合わせください。

## 同時開催のテーマ展

2020年度著名作家招聘事業×テーマ展

### 「植松永次展」

2020年12月12日(土)～2021年2月21日(日)

### 「丹波焼の世界 season4」

2021年2月28日(日)まで

## 次回特別展

### 「No Man's Land

—陶芸の未来、未だ見ぬ地平の先—

2021年3月20日(土)～5月30日(日)

## 交通のご案内

〔鉄道・バスをご利用の場合〕

- JR福知山線「相野駅」下車  
駅前より神姫グリーンバス「兵庫陶芸美術館」  
「こんだ薬師温泉」または「清水寺」行き乗車約15分、  
「兵庫陶芸美術館」下車  
※相野駅発バス時刻  
9:35、10:20、13:00、15:45、16:47  
土・日・祝は10:50、11:50、14:00が増便(2020年9月現在)

〔自動車をご利用の場合〕

- 舞鶴若狭自動車道:三田西ICより約15分、または丹波篠山口ICより約20分
- 中国自動車道:滝野社ICより国道372号を東へ約30分
- 阪神方面より国道176号を北上し、三田市四ツ辻信号を左折約15分
- 駐車場無料、大タイプ



土と語る、森の中の美術館



兵庫陶芸美術館  
The Museum of Ceramic Art, Hyogo

facebook もチェック

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立4  
TEL079-597-3961 <https://www.mcart.jp>



U e m a t s u

土  
と  
火  
S  
o  
i  
l  
a  
n  
d  
F  
i  
r  
e

2020年度著名作家招聘事業×テーマ展

# 植松永次展

2020.12.12 sat — 2021.2.21 sun

休館日 = 月曜日、2020年12月31日(木)、2021年1月1日(金・祝)  
(ただし、1月11日(月・祝)は開館、1月12日(火)は休館)

開館時間 = 10:00~18:00(入館は閉館の30分前まで)

観覧料 = 同時開催中の特別展「ひょうごゆかりの古陶磁—丹波焼・三田焼・王地山焼—」の料金に含まれます。

一般600(500)円、大学生500(400)円、高校生以下無料

※( )内は特別割引および20名以上の団体割引料金です。 ※本展のみの観覧券はありません。

※70歳以上の方は半額になります。 ※障害のある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。

※17:00以降に観覧される場合は、夜間割引料金になります。(一般300円、大学生250円)

主催 = 兵庫陶芸美術館、丹波新聞社 会場 = 兵庫陶芸美術館 展示室5



土と語る、森の中の美術館

兵庫陶芸美術館

The Museum of Ceramic Art, Hyogo

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4

TEL 079-597-3961 (代表)

<https://www.mcart.jp>



《子供の好きな時間》1987



《収穫》1988



《痕跡の入れもの》1975



《土景》1988



植松 永次  
Eiji Uematsu

兵庫陶芸美術館では、国内外で活躍する著名な作家を招聘し、若き作り手たちに刺激を与え、幅広い人々により深く陶芸に親しんでいただくため、2006年より「著名作家招聘事業」を実施しています。第15回となる今回は、土と火を素材としながら、彫刻にも、陶芸にも括りきれないような独創的な作風により、現代美術の領域からも注目を集めている作家・植松永次氏(1949-)をお迎えします。

兵庫県神戸市に生まれた植松氏は、1970年代初め頃、東京の専門学校で油絵やドローイングを学びますが、やがて、自然の材質に惹かれ、より根源的な造形を求めていくうちに、大地とじかに繋がる「土」という素材に魅力を感じるようになります。そして、「何かを作るとか、表現する事ではなく、土を手を、押したり叩いたりして、手と目で土の表情を感じ、質を確かめる」という行為から、自ずと生まれ出づるかたちをテーマに制作を始めました。

1975年に滋賀県甲賀市信楽町に移住し、製陶工場で勤務する傍ら、自らの創作活動を深めていきますが、1981年より野焼きを始め、1982年に三重県伊賀市丸柱に住居と仕事を構えて、薪と灯油併用の窯を築きました。そして、周囲を森林に囲まれた豊かな自然の中で、様々な土の表情を引き出し、作域を広げていきました。

植松氏の作品には、いつも印象的な言葉が添えられます。それは、植松氏の世界観を表すものです。飄々(ひょうひょう)と、しかし、鋭い視線で世界を見つめながら、今、自身が拠って立つ場所で、周囲の自然と呼吸を合わせながら生きていくこと。そして、そこで見たり、聞いたり、感じたりしたものを、土と言葉とでささやかに創出していくのが、植松氏の創造の世界なのです。

本展では、そのユニークな土との対話方法から、「土で表現すること」の意味を再考し、その新たな可能性を示唆するところを探ります。



《空から》1998



《ひょうたん》1993

- 1949 兵庫県神戸市に生まれる
- 1972 土の質を確かめる事からレリーフを削り、その後、東京でやきもの仕事を始める
- 1975 滋賀県甲賀市信楽町に入り、製陶工場勤務の傍ら、自らの制作を続ける
- 1982 三重県伊賀市丸柱に住居と仕事を移し、薪と灯油併用の窯を築き、野焼きも含め、作域を広げる
- 1996 滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンスのゲストアーティストとして制作
- 2007 植松永次 陶芸展 土の形(伊丹市工芸センター、兵庫)
- 2009 植松永次展 土・火-根源へ(小海町高原美術館、長野)
- 2015 第10回パラミタ陶芸大賞展(パラミタミュージアム、三重)
- 2016 植松永次 鬼のみた空(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)革新の工芸-“伝統と前衛”-そして現代(東京国立近代美術館工芸館)

## 2020年度著名作家招聘事業プログラム

### 植松永次氏による展示解説

2020年12月20日(日) 11:00~12:00

会場 当館エントランス棟2F 展示室5

参加費 無料(ただし観覧券が必要です)

事前申込み不要

### 野焼きワークショップ

1日目:2020年12月20日(日) 13:00~15:00 成形

会場 当館エントランス棟1F工房等

2日目:2021年1月31日(日) 10:00~15:00 野焼き

会場 当館入口前 第4駐車場敷地内

定員 15名(事前申込制、応募多数の場合は抽選)

対象者 土と火、陶芸に興味のある方(2日間とも参加できる方)

※原則、高校生以上(小中学生が参加する場合は保護者同伴に限る)

参加費 3,000円

申込締切日 12月3日(木) 16:00必着

※詳しくはお問い合わせください。

### 当館学芸員によるギャラリートーク

2021年1月17日(日)、2月14日(日)、2月21日(日)

いずれも11:00より(観覧券が必要です)

### 同時開催の特別展

「ひょうごゆかりの古陶磁 一丹波焼・三田焼・王地山焼」

2020年12月12日(土)~2021年2月21日(日)

### 同時開催のテーマ展

「丹波焼の世界 season 4」

開催中~2021年2月28日(日)



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展覧会、イベント等の会期や内容に変更が生じる可能性があります。最新情報は兵庫陶芸美術館ホームページにてご確認ください。

### 交通のご案内

#### 【鉄道・バスをご利用の場合】

- JR福知山線「相野駅」下車、駅前より神姫グリーンバス「兵庫陶芸美術館」[こんだ薬師温泉]または「清水寺」行き乗車約15分、[兵庫陶芸美術館]下車
- ※相野駅発バス時刻 9:35、10:20、13:00、15:45、16:47
- 土日祝は10:50、11:50、14:00が増便(2020年10月現在)

#### 【自動車をご利用の場合】

- 舞鶴若狹自動車道・三田西ICより約15分、または丹南篠山ICより約20分
- 中国自動車道・滝野社ICより国道372号を東へ約30分
- 阪神方面より国道176号を北上し、三田市四ツ辻信号を左折約15分
- 駐車場無料、大可

土と語る、森の中の美術館  
**兵庫陶芸美術館**  
The Museum of Ceramic Art, Hyogo

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立4

TEL 079-597-3961(代表)

https://www.mcart.jp

Facebookもチェック